



雪が舞う季節となりました。天気の長期予報などでは、平年並みかやや多いという予報が出ています。今後、予報が変わるかもしれませんが、4年前のような大雪が降らなければと願うばかりです。

さて、今回はあまり知られていない、しかし非常に興味深い野坂川周辺と岩坪周辺の見所を紹介したいと思います(図1)。



図1 見所の分布図(国土地理院地図に加筆)

鳥取平野に存在する異空間「安長土手」

右の写真1をご覧ください。この写真は、鳥取市安長にある安長土手と呼ばれる場所です。この写真のような木々がつくるトンネルは、およそ500m程続いています(写真2)。この樹木の裏には、住宅地が広がり、近くにはホームセンターや家電量販店などがあります。人通りの多い地域に接していますが、おそらく地元の方しか知らない空間だと思います。鳥取平野に、なぜこのような空間が存在しているのでしょうか。



写真1 安長土手(「嵐ヶ鼻土手」とも呼ばれる)

安長土手の竣工は、中世の頃(13世紀以降)だと考えられています。近くには千代川やその支流の野坂川が流れていますが、当時は千代川や野坂川などが氾濫を繰り返し、安長周辺の耕地は非常に不安定な状態で利用されていたと考えられています。河川の氾濫から耕地を守るために、鎌倉時代末期頃に作られた堤防が安長土手です。安定した収穫が行える耕地になると、人々が定住することが可能となり、集落が形成されていきました。生えている樹木は、土手を強くするために植えられた雑木(堤防林)が長い年月をかけて成長したもので、タブノキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなどの常緑樹や、ムクノキなどの落葉樹が見られます。このような平野部に存在する樹林は大変貴重で、鳥取市の保存樹林に指定されています。また、中世の河川堤防が、周辺の宅地開発から免れ、奇跡的に残っていることから、土木学会推奨土木遺産にも指定されています。現在は、河川の氾濫を防ぐ土手としての役割は果たしていませんが、地元の方が散策路等として利用するとともに、清掃活動などを行って、土手を守ってられます。この安長土手と堤防林は、自然と共存するために工夫しながら住みやすい環境をつくっていった先人たちの遺産です。近くのホームセンター前の道路沿いには、案内の標柱が建っており(写真3)、そこから土手を歩くことができます。ぜひ一度歩いてみてください。



写真2 上空から見た安長土手(国土地理院地図より)



写真3 道路沿いの標柱

次に野坂川の中流域と、その南部に位置する岩坪周辺の見所をご紹介します(図1)。(裏へ)

歴史ある神社（松上神社、岩坪神社）と河川が作った地形（河岸段丘、多鯨平、甌穴）

山陰道の鳥取西 IC から県道 49 号線を南に進み、野坂橋を渡ってしばらくすると左前方の山裾の一段高い平坦面に集落が見えます。この平坦面が河岸段丘の段丘面^{がけ だんきゅうがい}で、崖は段丘崖^{だんきゅうがけ}といひます（写真4）。この地形は、野坂川が長い年月をかけて作ったものです。野坂川が流した土砂は、谷を埋めて堆積し、平坦面^{こくてい}（谷底平野）を作りました。その後、土地が隆起して野坂川の河床が侵食され、侵食されなかった部分が段丘面として残りました（図2）。段丘面上には家が建ち並びとともに、水田が広がっています。明瞭な段丘崖が続く景観は、一見の価値ありです。

野坂川を上流に向かっ
て進んでいき、明治小学校
を過ぎてしばらく行った
ところに、坂根から岩坪へ
通じる分かれ道がありま
す。その入り口には、バス



写真4 野坂川河岸段丘の段丘崖

停があり、その横に「松上神社とサカキ樹林」を解説したジオパーク看板があります（写真5）。松上神社は創建年代は不明ですが、因幡国の農家の人々に崇拝され、五穀豊穡を祈念し参詣されてきた歴史ある神社です。坂根の集落を抜け、山道を上ったところに神社があり、神社の社叢には多くのサカキが見られます。これらのサカキは、サカキ樹林としては全国唯一の天然記念物に指定されています。時間があれば、ぜひ立ち寄ってみて下さい。



図2 河岸段丘と谷底平野のでき方（国土地理院ウェブサイトより）



写真5 ジオパーク看板



写真6 多鯨平の湿田

坂根川に沿った細い道を進んでいくと湿田が広がっています（写真6）。この湿田は多鯨平と呼ばれ、坂根川から砂見川へ河川の流路が変わった後に残された流路跡だといわれています。この地には、浜坂の多鯨ヶ池のお種伝説と似通った伝説も伝わっており、非常に興味深い場所です。また、湿田の地下からたくさんの埋没林が見つかりました。鳥取県立博物館でその一部を見ることができます。現在は、田園風景が広がっていますが、過去にこの場所で大きな大地の変動があったことが想像できます。

多鯨平から坂道を下ったところが岩坪地区です。集落の奥にある岩坪神社に行ってみましょう。岩坪神社は麒麟獅子舞^{きりんししまい}で有名で、その舞は県指定無形民俗文化財に指定されています。神社横の溪谷には砂見川が流れており、鳥居をくぐり砂見川に沿って20m程進むと、大きな甌穴^{おうけつ}が現れます（写真7）。甌穴は、窪みに入った礫^{れき}などが流水によって動き、周囲の岩を削ってできる円形の穴のことです。この甌穴は、坪大明神として礼拝され、「岩坪」という地名も甌穴^{おうけつ}から名付けられたといわれています。昔から人々の生活には必ず信仰が伴い、初めて入植した先人たちがこの甌穴を信仰の対象としたのでしょう。先人たちと同じ場所に立ち、同じ景観をみることで、私たちも先人たちと同じ空間を共有することができます。これもジオパークの楽しみ方の一つです。（安藤）



写真7 岩坪の甌穴

<主な参考資料> ・<http://www.ccba.or.jp/archives/pdf/t01.yasunagadote.pdf>

・鳥取県野外学習指導テキスト第10集『千代川下流域とその周辺』1991年、鳥取県教育センター

・赤木三郎編『日曜の地学23 鳥取の自然をたずねて』1997年、築地書館

・岩坪村づくり協議会『岩坪郷土史』2012年

【イベント情報】 詳細は当館ホームページをごらんください。→HP:<http://www.pref.tottori.lg.jp/255369.htm>

★ 2月6日（日）9:00-12:00

★ 2月13日（日）10:00-12:00

★ 2月21日（日）9:30-12:00

「チリメンモンスターを探そう！」

「琥珀標本をつくろう！」

「石を顕微鏡でのぞいてみよう！」